



# 学校だより アンケート特集号

平成 29 年 9 月

京都市立桂東小学校

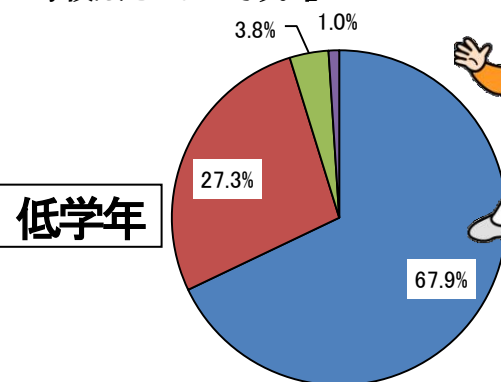
校長 和田 英明

前期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

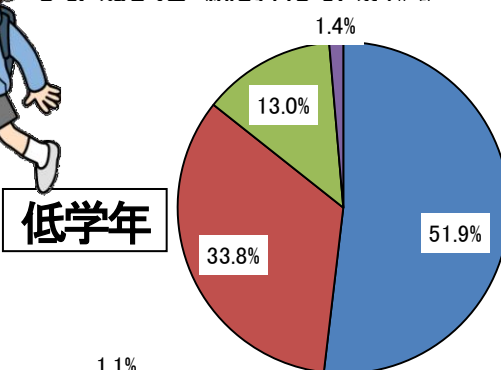
低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。

## 子どもたちのアンケート結果から（１）

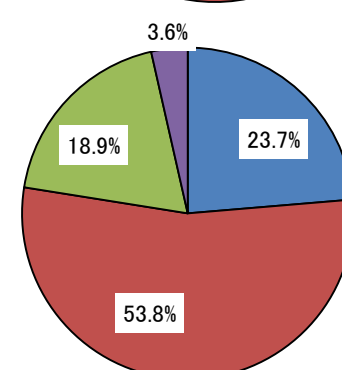
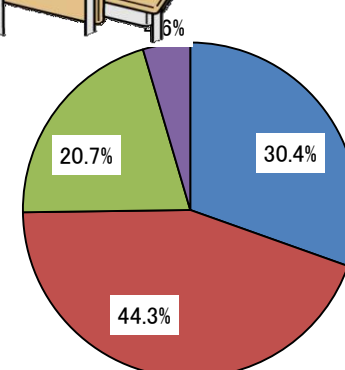
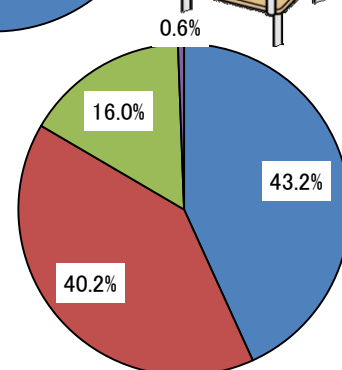
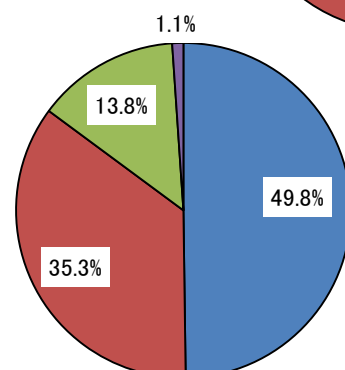
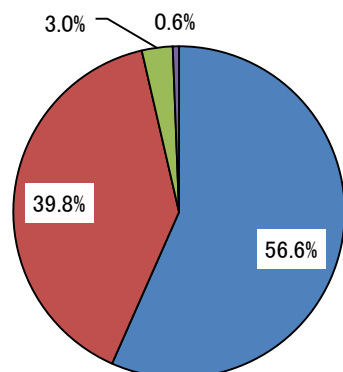
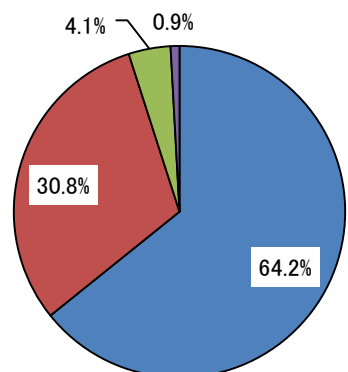
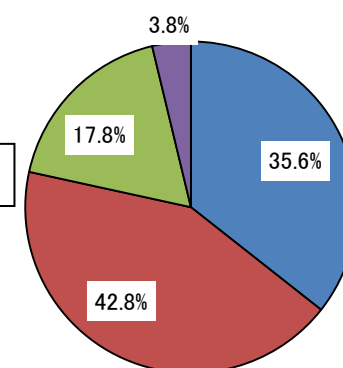
『学校はたのしいです。』



『自分の考えをしっかりと発表したり、友だちの意見をしっかりと聞いたりして、友だちと一緒に学習しています。』



『いつもよい姿勢で学習しています。（話す、聞く、書く…など）』



“とても楽しい” “まあまあ楽しい” を合せると、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも95%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっており、うれしく思っています。

しかし、“あまり楽しくない” “楽しくない” を合せると、高学年が一番低く、低学年と中学年がいずれも5%ぐらいで高くなっています。高学年になってくると行事をはじめ、学習や部活動…などに、自分のめあてを持ち、モチベーションを持続して主体的に取り組めるようになり、それなりに有意義な学校生活が送れるようになってきます。低学年では、そのような取り組みが難しいので、このような結果になっているのかもしれない。

個人差の問題でもあり、お子たちのことでご心配なことがありましたら、すぐに担任にご相談ください。

“あまり出来ていない” “出来ていない” を合わせると、低学年14.4%、中学年14.9%、高学年16.6%と否定的な回答が高くなっています。

「主体的・対話的で深い学び」を目指して、子ども同士の協働的な学習を取り入れるように心がけていますが、この結果をみるかぎり、まだまだ道半ばという感じです。今一度、1年生から発達段階に応じた、しっかり「聞く」、しっかり「話す」指導力を入れていく必要があると思います。

また、自分の考えが深まったり、変容していく様子が実感としてとらえられるような話し合い活動に取り組んでいきたいです。さらに、一人ではなく、みんなと一緒に課題を発見し、解決していくプロセスを楽しみ、みんなで課題解決できた喜び、成就感を実感として味わえるような学習を積み重ねていきたいと思っています。

“よく出来ている” が低学年35.6%、中学年30.4%、高学年23.7%と肯定的な回答が低くなっています。“あまり出来ていない” “出来ていない” を合わせると、低学年21.6%、中学年25.3%、高学年22.5%と否定的な回答が高くなっています。否定的な回答がおよそ全体の四分の一近い結果となっています。

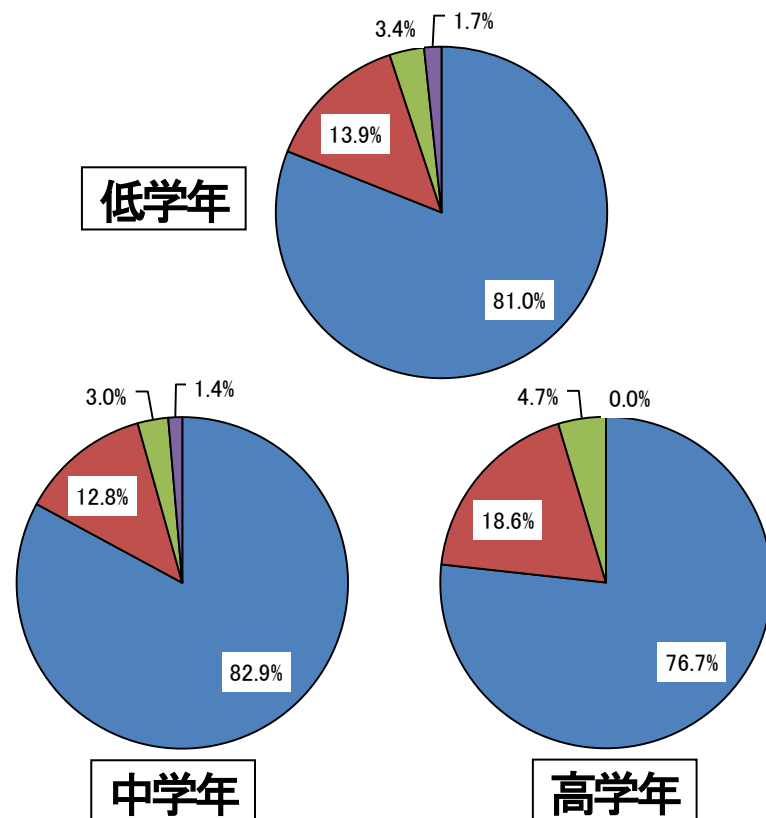
教室の子どもたちを観ていても何か、子どもたちの学習に向かうエネルギーや気力、モチベーションが足りないように感じたり、1時間(45分)姿勢を保つ体力が子どもたちに不足しているように感じることも少なくない状況です。

基本的生活習慣の見直しをしなければならぬ子どももいます。学習に向かう学級集団に育てていくには、学習に向かう子どもを育てていく必要があります。家庭と連携して取り組んでいきたいと思っています。



## 子どもたちのアンケート結果から（2）

『お友だちとなかよく遊んでいます。』

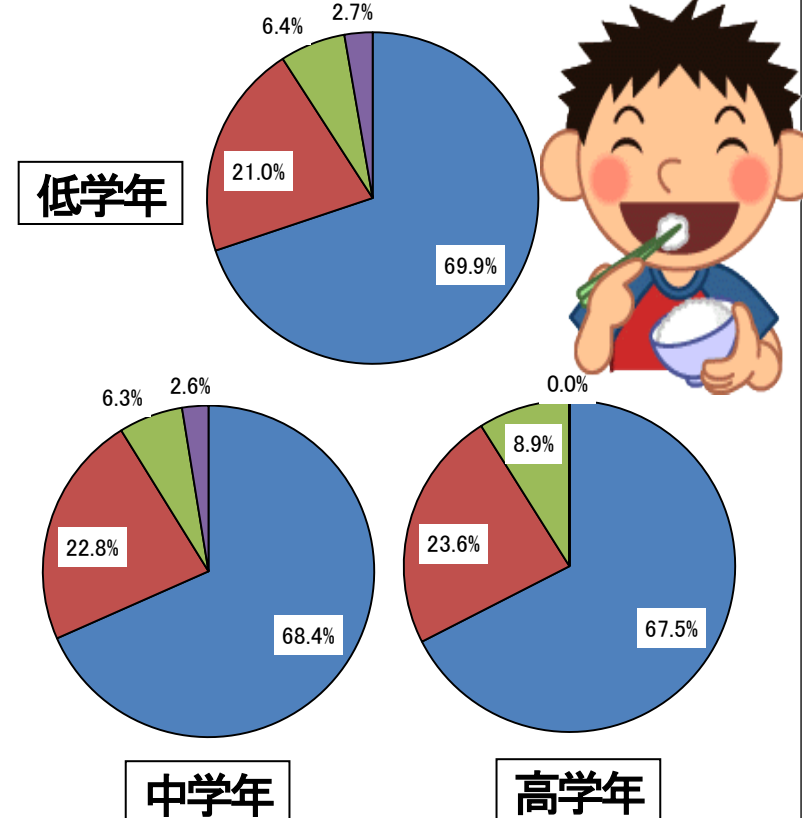


“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年94.9%、中学年95.7%、高学年95.3%とどの学年も高い比率となっており、学年の差異もほとんど見られません。“出来ていません”という否定的な回答では、高学年は0%であったのに、低学年が1.7%、中学年が1.4%となっております。

最初の「学校はたのしいです。」では、“あまり楽しくない”“楽しくない”を合わせると、高学年が一番低く、低学年と中学年がいずれも5%ぐらいで高くなっていました。この結果と完全にリンクしています。

子どもたちにとって、学校の楽しさは友達関係に負うところも大きいようです。低学年での友だち関係は目まぐるしく変わっていきます。お子たちの友だち関係は、常に把握していただき、気になる様子であれば、すぐに担任にご連絡いただき、ご相談ください。“手は離しても、目は離さないようにしましょう！”

『健康に気をつけ、食事は好き嫌いをなく食べています。』



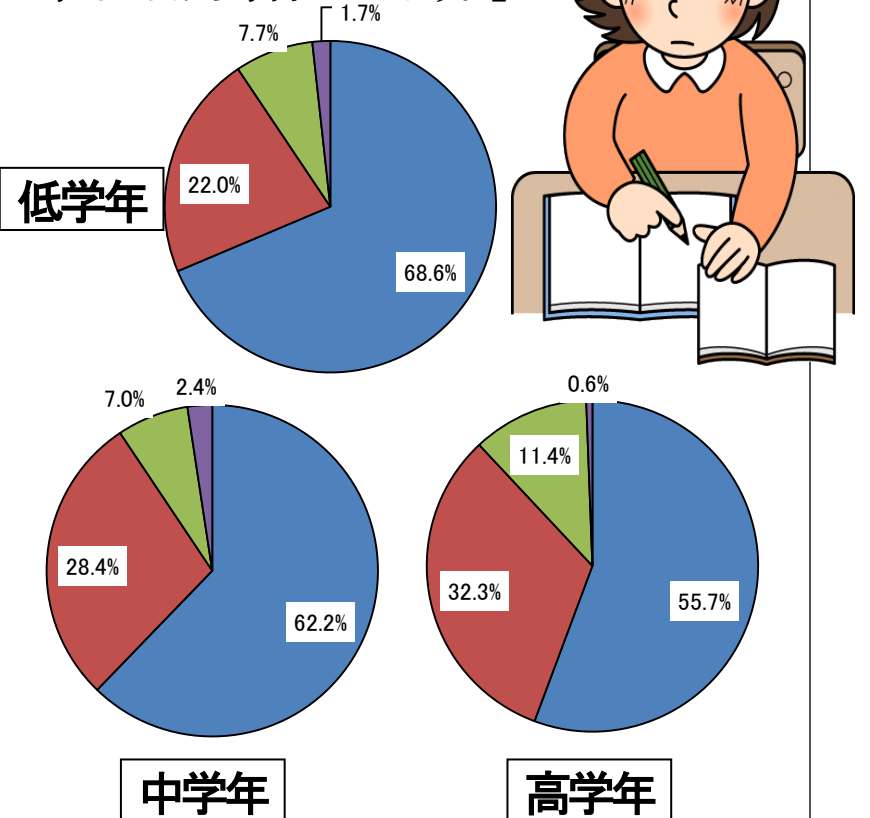
“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年90.9%、中学年91.2%、高学年91.1%という結果となっています。全体的に安定した食生活を送っているように思われます。

ただ、“出来ていない”が高学年は0%であるのに、低学年が2.7%、中学年が2.6%となっております。ご家庭の協力も得て、子どもたちの好き嫌いをなくしていきたいと思ひます。

また、食事は食べる時の場の設定も大切です。学校では机や机の雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わいながら食べております。各ご家庭でもいかがでしょうか？現在、注意したい6つの「コ食」と言われています。安心・安全な食品を選択していく力も大切ですが、進んで食べようとする気持ちを育てる食卓の場の設定にも十分配慮していきたいと思ひます。

成長期にある子どもの健康な体をしっかりと作っていくよう、ご協力お願いいたします。

『家でしっかり学習しています。』



“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、どの学年も90%前後を推移しております。“出来ていない”という否定的な回答が、低学年1.7%、中学年2.4%と高学年の0.6%よりほぼ3倍程度高いです。

ただ、低学年の場合、家庭での学習は、教師から与えられた課題のみに取り組んで終わっていることが多いように思われます。高学年はそれなりに主体的な学習に取り組んでいるようです。その点で、低学年や中学年より否定的な回答が多かったと考えられます。

家庭学習のねらいは、家庭でも自ら学習する習慣を身に付けることにあります。教師から課題を与えられるだけの受け身の学びではなく、自らが課題を選ぶ主体的な学びをつくっていきたくて思ひます。

そこで、自主学習ノートで家庭学習を積み上げていき、小さな成功体験を積み重ねながら達成感を味わっていくと、学習への意欲を高めていくことにつながっていくと思ひます。